

# 令和3年度 自己評価結果とりまとめ

1, 評価項目の達成および取り組み状況		つくしんぼ保育所
評価項目	取り組み状況	
I、保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の方針を活かして戸外での活動を取り入れていく。</li> <li>・子どもの発達と子どもの様子を考慮して保育の計画を立てる。</li> <li>・保育者同士で常にその日の保育の評価反省を話し合い改善点があれば話し合う。</li> </ul>	
II、保育のあり方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達面において少しでも困り感や違和感があれば早めの対応をする。</li> <li>・毎日の視診をし一人ひとりの様子を観察してその子に合わせた声かけや援助の仕方を工夫する。</li> </ul>	
III、保育者としての資質や力・良識・適正	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数担任は職員との連携を重視し、子どもの様子や保育の事の報告連絡相談を必ず行う。</li> <li>・他クラスの状況等も情報を伝え合い共有する。</li> </ul>	
IV、保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日あった事などを保護者へ伝え、家庭での様子もさりげなく聞いていく。</li> <li>・コロナ関連など個人情報漏らさない様に気をつける。園側もすぐに対応出来るよう、熱などの対応等市からの変更があった場合等しっかり把握しておく。</li> </ul>	
V、地域の自然や社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方に散歩道中にすれ違ったら必ず挨拶を交わす。</li> <li>・地域周辺の自然の物を子ども達と探しに行き、触れ合う。</li> </ul>	
VI、保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の機会を設け、子どもの発達や専門性を高める。</li> <li>・研修で学ぶだけではなく、園に持ち帰り他職員とも共有し、日々の保育でも生かせる様にする。</li> </ul>	
VII、保育のあり方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりの言葉や表情、行動から、何を思っているのか意図をくみ取るよう努める。</li> <li>・子どもの発達を促す環境づくりや子どもの目標や課題を明確にし関わられるようにする。</li> <li>・毎日健康状態をチェックし一人ひとりの様子を観察し、無理の無いようその子に合わせた対応をする。</li> </ul>	
VIII、地域における子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度もコロナ禍で地域交流がなかなかできないが、公園などで出会ったり一時預かりに来られた方等積極的に関わっていく。</li> <li>・分園ほっとステーションで親子イベントを月3回程度行う。</li> </ul>	
IX、食育の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーのある子どもの除去食について園全体の職員でしっかりと周知し、把握しておく。また、解除の結果が出た場合も必ず全体で把握しておく。日々の給食等、給食室と保育士と確認し合ってから子どもに出す。</li> <li>・園庭で苗から育てた野菜を収穫し、季節の食材に触れ、味わう。</li> <li>また、七草粥やヨモギ団子に使う食材を戸外に探しに行き、どういう物を食べるのかを知る。</li> </ul>	

## 2, これから改善したいこと

つくしんぼ保育所

評価項目	具体的な取り組み
I、保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し長期的な視野で計画を立てていけたらと思う。</li> <li>・個々の目標、学年の目標を見直しや発達の段階を踏まえて計画をした。個々に応じた計画だけでなく、できることを伸ばせられる要素も取り入れた計画を立てる。</li> <li>・余裕を持った保育を心掛けたが、朝夕の保育でトラブルがあったりするので、子どもの興味を引けるものを準備しておくようにする。</li> <li>・発達段階の差に対する保育計画の見直し。</li> </ul>
II、保育のあり方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の体調チェックやケガ等は帳面や口答で必ず伝えるようにした。</li> <li>・子どもの今の姿を捉え、理解する事を目標に取り組んだ。</li> <li>・禁止や命令など自信を失わせるような言動には気を付け、子どもが前向きな気持ちで成長していけるよう心掛ける。</li> <li>・取り組みにあたり、早めに準備をし、スムーズに保育を行う事ができるようにする。</li> </ul>
III、保育者としての資質や力・良識・適正	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の専門性を各自高めると共に、たくさん話し合いを重ねて意見交換をしたり、チームワークを高めていく。</li> <li>・疑問に思った事や悩み事は早い段階で園長や主任に相談した。</li> </ul>
IV、保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との関わりを大切にし、子どもたちの成長を喜び、より成長できるよう連携をとる。また、コミュニケーションをしっかりとる</li> <li>・コロナ関係での変更点などを職員側がよく理解してわかり易く説明したり、わからない点は園長、事務長、主任に確認してしっかりと伝えられるようにしたい。</li> </ul>
V、地域の自然や社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節ごとに積極的に体験できること（水あそび、木の実を拾う、雪や氷に触れるなど）を続けていく。</li> <li>・敬老の日やクリスマスなど高齢者の施設の方や地域の方々にお守りやカードを作ってプレゼントを届けた。</li> <li>・地域の方とも関わりを持てるよう散歩などで挨拶ができるよう促していく。</li> </ul>
VI、保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機会があれば、研修には積極的に参加していく。</li> <li>・子どものアレルギー、体質、持病などに関心を高く持ち、適切な配慮ができるように努めていく。</li> <li>・保護者対応について研修を受け、相手に直球対応するのではなく、自分なりにまとめてから話をするようにした。</li> </ul>
VII、保育のあり方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人見知りする子がいたが、何度も関わる中で話しかけてきてくれたり、名前を覚えてくれたので、今後も信頼関係を築いていく。</li> <li>・他クラスとの共有。月齢差や発達の差をしっかりと把握し、遊びの設定を考えて成長を促せるようにしたい。</li> <li>・発達に差があるため、高月齢の子の活動が足りなくならないよう活動場所を分けたり、工夫する。</li> </ul>
VIII、地域における子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時保育の利用者は情報が少ない中での保育になるため、受け入れの際にしっかりと保護者の方から必要な事を聞いておく。</li> <li>・困っている保護者に自然に声を掛けられるように心がけたい。</li> </ul>
IX、食育の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離乳食の進め方などもう少し保護者に寄り添って進めていきたい。</li> <li>・個人差があるので一人ひとりの発達に合わせる。</li> <li>・箸の持ち方を指導し、正しい持ち方を伝える。</li> <li>・食育を通して、心身の健康の確保だけでなくマナーやコミュニケーション能力、協調性など社会生活を営む上で必要な土台作りをしていく。</li> <li>・保護者と園での取り組みに差が見られ、難しいところではあったが、園での子どもの様子や取り組みを伝え、認識して頂くところから始める。</li> </ul>